

嫉妬^{しつと}

東部小・5 辻村 嶺

空手の黒帯の試験会場

入ったしゅん間、きん張した

大変だったけれど、一発合格

いっしょに合格した一つ下の子と

喜び合って

悪いところと良いところを言い合った

年下なのにすごいな でも……

一つの嫉妬が生まれてしまった

それからどんどんひどくなった

ぼくより先にいろんなことを覚え

ぼくよりも命をかけているように

必死に努力ができる

ああ、自分だめなんだ……

どんどん嫉妬がふくらんでいく

そんな時

「自分のやり方で努力すればいい」
と声をかけられた

この言葉はまるでまほうのように

ぼくの嫉妬をなくしてくれた

そうだ、先ばいや先生も

ぼくと同じ思いをしながら

努力を続けてきたんだ

ぼくなりの努力をすればいいんだ

ぼくはまだまだ未じゆく者

一人前の大人の黒帯を取るために

練習や努力を続けよう

嫉妬ではなく自分なりのやり方で